

以下の記事は、NYタイムズ紙無料記事の、AALA ニュース編集部による和訳である。なお訳出にあたって、Googleの無料翻訳機能を活用し、その出力結果を一部修正したが、速報のための仮訳として理解いただきたい。(SS)

.....  
The New York Times  
March 11, 2023

## オピニオン | 中国との対立で得をするのは誰か？

### Who Benefits From Confrontation With China?

<https://www.nytimes.com/2023/03/11/opinion/china-us-relationship.html>

By The Editorial Board

The editorial board is a group of opinion journalists whose views are informed by expertise, research, debate and certain longstanding [values](#). It is separate from the newsroom.

#### 米中関係変化の理由はアメリカの中国に対する対決姿勢の強まりだ

アメリカの中国に対する対決姿勢の強まりは、アメリカの外交政策における重大な変化である。その背景、利害得失についてはより広範な評価と議論が必要である。

過去半世紀というもの、米国は経済的・外交的関与を通じて中国を再構築しようと試みてきた。トランプ政権の場合は、より厳しい経済的・外交的攻撃を通じて行われた。

バイデン政権はこれとは対照的に、中国を変えさせるという考えは棚上げし、中国の行き過ぎを牽制するという方式を優先している。

ホワイトハウスは中国との経済関係を制限し、軍事利用可能な技術への中国のアクセスを制限しようとしている、

米国は長年中国との関わりが深い国際機関から手を引き、中国の近隣諸国との関係を強化しようとしている。

ここ数カ月、アメリカは中国への半導体輸出を制限し、今週はオーストラリアが原子力潜水艦を獲得を支援する計画を進めた。政権はまた、特定の中国企業に対するアメリカの投資に新たな制限を課そうとしている。

こうして中国をアメリカの国益への脅威と見なすことで、共和党の有力議員、軍部や外交政策の専門家の多く、そして経済界を含む幅広い支持を得て行動している。

## 米国の対中政策は間違っていたのか？

ブリンケン国務長官は、昨年5月のジョージ・ワシントン大学での講演で、政権の中国政策を明確にした。ブリンケンは対中国政策は失敗だったと断じた。

「米国は国際機関のルールに従うよう中国を説得したり、強制したりすることにほとんど成功していない。

中国は、国際秩序を再構築する意図を持ち、そのための経済力、外交力、軍事力、技術力を持つ唯一の国である。中国はますます他国に優先事項を押し付けようとしている。北京の支配力拡大は、過去75年間にわたり世界の進歩を支えてきた普遍的価値観から我々を遠ざけることになる。

中国との関係強化は期待したほどの成果を上げていない。中国は資本主義を受け入れたが、それは社会や政治体制の自由化に向けた第一歩にはならなかった。

実際、中国の国家主導型資本主義は、他国の自由民主主義の健全性を損なっている。

米国は、ウイグル族のイスラム教徒に対する弾圧や知的財産権の軽視など、深刻な相違が残る問題について、中国の指導部に圧力をかけ続けている。

中国はまた、南シナ海や台湾海峡での軍事行動や、アメリカ上空での気球の航行など、憂慮すべき挑発行為を繰り返している。

米政府高官によれば、中国はロシアへの軍事援助を検討しているとのことである。この動きは米国との緊張を意図的にエスカレートさせることになる。

## 対立から利益は生まれない、良きライバルとなるべき

しかし、米国と中国の関係は、さまざまな問題を抱えながらも、多大な経済的利益をもたらし続けている。両国は毎日、何百万もの正常で平和的な交流によって結ばれている。また気候変動のような共通の問題を抱え協力する基盤がある。

アメリカ人の利益は、中国との対立を最小限に抑えながら、良きライバルとしての意識を強調することによって最大限に実現される。

口先だけで冷戦を引き合いに出すのは見当違いだ。二つの関係がまったく異なるものであることは、一目見ただけで理解できる。

アメリカは相手の足元をすくうよりは、より速く走って勝てるように集中すべきだ。それには教育や基礎科学研究への投資を増やすなどが考えられる。

中国の行動やレトリックもまた、視野に入れておく必要がある。超大国の基準からすれば、中国は依然として自国第一主義である。

対外関係は、特に自国周辺以外では、主として経済的なものにとどまっている。

中国は近年、国際問題でより積極的な役割を果たすようになった。イランとサウジアラビアの関係を再構築するために中国が果たした役割は、良い例である。

しかし、中国は自国の社会的・政治的価値観を他国に押し付けることは関心がない。

### **米中両国には共通の課題がある**

中国の指導者たちは、対決的な姿勢をとることで一致しているわけでもなさそうだ。米国人は中国人と、互いに安心感を与えあう必要がある。

アメリカも中国も、多くの同じ課題に直面している。

\* 所得格差の時代に、習近平国家主席が「共通の繁栄」と呼ぶものをどのように確保するか。

\* 資本主義の重要な創造力を失うことなく、資本主義の最悪の行き過ぎをどう抑制するか。

\* 高齢化する人口と、仕事以上のものを人生に求める若者をどうケアするか。

\* 気候変動をどう抑え、その破壊的影響にいかに対処するか。

などで共通している。

アメリカの中国戦略の中核は、同盟国との関係強化にある。それは適切な政策である。米国は同盟国とのあいだで時間をかけて、経済的利益と国家目標との整合性を調整すべきであろう。

インド太平洋地域の同盟国との関係を強化することも必要である。「私たちは彼らに負けないようにと頑張っています。それが世界中の人々の心をつかむことに繋がるからです」と、行政管理予算局のシャランダ・ヤング局長は語った。

### **孤立主義の復活 国際関係からの離脱傾向は間違いだ**

しかし米国は、中国と長年にわたって関わってきた国際機関から手を引くべきでない。例えば、世界貿易機関（WTO）には、貿易紛争を裁くために設立された上訴裁判所がある。

しかし同裁判所は、最近任命された判事が任期を終えたため、2年以上運営されていない。新しい判事は米国の支援なしには設置できないが、バイデン政権はその支援を拒否している。

米国はWTOの貿易ルールを策定する委員会からも手を引いている。WTOの専門家であるシンガポール経営大学のヘンリー・ガオ教授によれば、習近平氏が2021年11月、アメリカの重要な目標である国有企業に関するルール作りの場としてWTOを利用することを提案した。しかしアメリカはその件についてあまり関心を示さなかった、

そういう態度は間違いだ。ルールに基づく国際秩序の構築は、20世紀における最も重要な成果のひとつである。それにはアメリカが主導的な役割を果たしたのだ。

米国が様々な国際制度に参加しなければ、それを維持することはできない。

バイデン政権はトランプ政権時代の対中貿易制限を継続。それだけでなく、いくつも新たな制限を課した。これも疑わしい戦略である。競争を制限することは短期的には利益をもたらすだろう。しかし、ここ数十年のアメリカの経済成長は、グローバルな貿易部門で競争に打ち勝つことによってもたらされてきたのである。

### **競争は苦痛だが有益でもある**

競争は苦痛であると同時に有益でもある。連邦政府がインフラ、研究、技術教育に対して行っている大規模な投資の価値は、著しく低下している。なぜならアメリカ製品の市場規模を制限したり、健全な外国との競争からアメリカ企業を保護するような措置によって競争力が押し下げられているからだ。

米中対立への路線転換は、気候変動への対応など全人類的課題や、本来一致しているはずの課題でも協力を難しくしている。

これまで中国政策の多くは、国防のために必要であるとして正当化されてきた。国家安全保障への配慮は、ある種の対中貿易を制限する根拠とっている。

しかし、それは保護主義的措置を正当化する事になりかねず、決してアメリカの利益にならない。

長期的に見れば、アメリカの安全保障の最善の保証は、アメリカの繁栄と世界との正常な関わり以外にない。

それは中国にとっても同じだ。

(題名とは逆で得をするのが誰かは曖昧だが、損をするのがアメリカだということのはっきりしている、というのが論者の言い分 SS)